

(2) 東北



東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

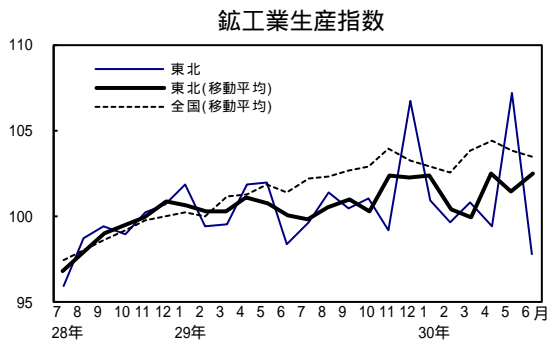
前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 5 月)	今回 (平成 30 年 8 月)	
個人消費	底堅く推移	<u>足踏み</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

4 - 6 月期には、電子部品・デバイスは、スマホ向けコネクタ等の減少により減少した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体需要の世界的な好調により、半導体製造装置等が増加した。食料品・たばこは、ビール、清涼飲料水、発泡酒類が増加した。情報通信機械は、ノートパソコンが好調である一方、カーナビゲーションシステムが減少した。輸送機械は、自動車用エンジンが減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

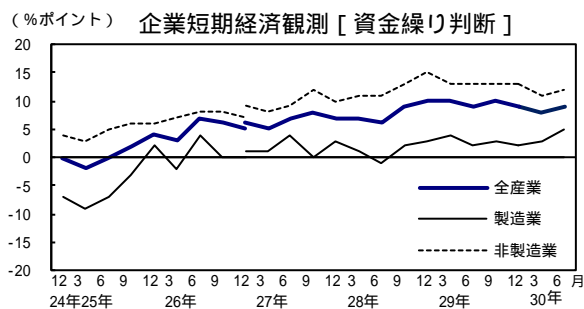
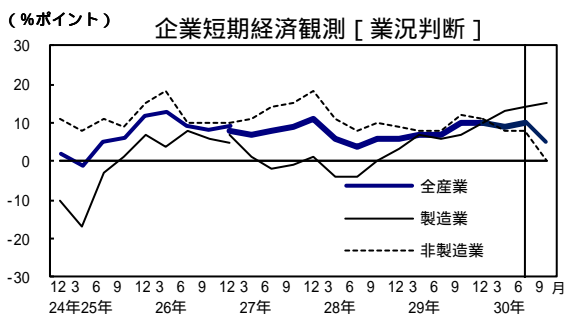
	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	16.9	4.6	1.6	0.2	2.3	2.8
はん用・生産用・業務用機械	14.7	1.0	0.6	0.4	17.1	24.6
食料品・たばこ	10.6	0.0	0.8	2.5	4.4	3.9
情報通信機械	9.2	12.1	3.0	2.0	0.2	9.6
輸送機械	8.3	2.2	0.5	0.8	7.0	1.8
鉱工業	100.0	1.9	1.1	1.4	7.8	8.8

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4 - 6月期、6月は速報値。

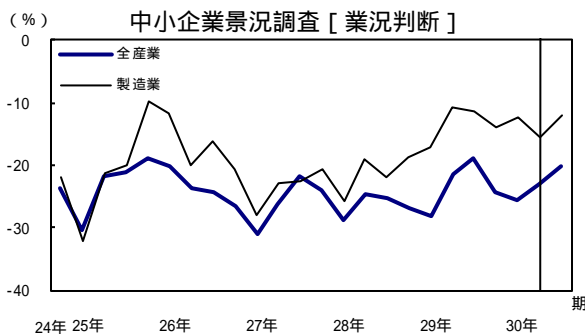
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年9月は予測。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

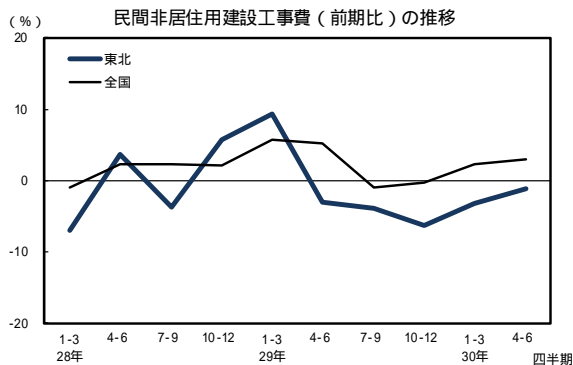


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「暑さのせいなのか、お中元商戦も今一つ盛り上がりならず、動きが良くない(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	29年度実績	30年度見通
全産業	5.2 (0.1)	6.9(8.0)
製造業	7.6 (0.2)	7.2(7.3)
非製造業	2.1 (0.1)	6.6(8.8)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

(備考)1. 季節調整値。

2. 30年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.5%増、5月は同0.6%減、6月は同0.8%増となった。

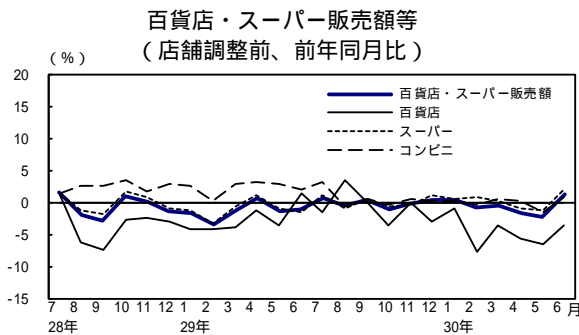
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、売り場面積の減少により、衣料品、飲食料品共に減少したことから前年を下回った。5月は、引き続き、売り場面積の減少などにより衣料品が減少したことから、前年を下回った。6月は、クリアランスセールの前倒しにより婦人靴などで動きがみられたものの、引き続き、売り場面積の減少などにより、衣料品、飲食料品共に減少したことから、前年を下回った。

スーパーは、4 - 6月期は、衣料品、飲食料品共に前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「夏の最盛期のため来客数、客単価が1年で一番高くなっている。厳しい冬に備えての大切な稼ぎ時である (コンビニ)」など「良くなっている」とする回答が増加した。

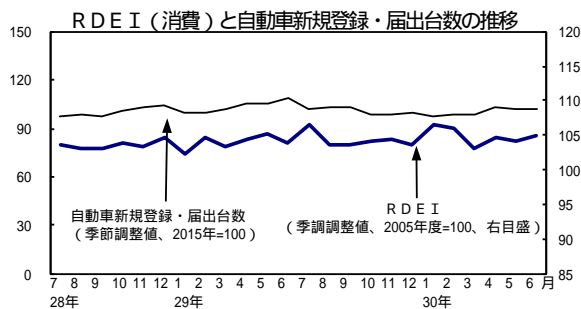


	30年4-6月	30年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.6	1.5	0.6	0.8
百貨店・スーパー(*2)	1.0	1.7	2.2	1.1
百貨店(*2)	5.3	5.8	6.6	3.5
スーパー(*2)	0.1	0.9	1.4	2.0
コンビニ(*2)	0.2	0.2	1.7	0.9
乗用車(*3)	3.7	0.3	3.4	6.5
(季節調整値)(*3)	4.6	5.3	1.8	0.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は30年度累計で見ると前年度を下回っている。

